

横浜市立大学 SATREPS 市民フォーラム

『アフガニスタン国際復興支援に向けた人材の育成とコムギの里帰り』

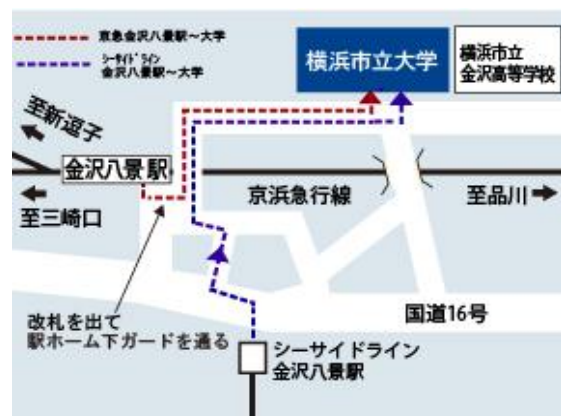
SATREPS (Science and Technology Research Partnership for Sustainable Development)地球規模課題対応国際科学技術協力とは、独立行政法人科学技術振興機構 (JST) と独立行政法人国際協力機構 (JICA) が共同で実施している、ひとつの国や地域だけで解決することが困難であり、国際社会が共同で取り組むことが求められている地球規模課題の解決のために日本と開発途上国の研究者が共同で研究を行うプログラムです。

横浜市立大学木原生物学研究所は、平成 22 年度 SATREPS 地球規模課題対応国際科学技術協力事業に採択され、プロジェクト国際共同研究のネットワークを活かした科学技術協力によりアフガニスタンの基盤となるコムギ育種の共同研究と国造りを支える人材育成のための5ヵ年プロジェクト「持続的食糧生産のためのコムギ育種素材開発」を展開しています。今年度本格的に始動した本プロジェクトについてアフガニスタンから共同研究カウンターパートを招聘し、プロジェクトのキックオフを市民の皆さんに伝える機会として、また SATREPS を実施する JST/JICA の取り組みを市民に広く理解いただく場として市民フォーラムを開催します。この市民フォーラムを通じて横浜市立大学と国際協力・復興支援に取り組む関係諸機関との連携を深め「人作り・国造り」ための英知を集約するネットワークの構築を進めます。アフガニスタンを事例とした国際貢献について「今我々ができること」を市民や次世代を担う学生たちと共に考え、横浜市立大学の国際化にむけた取り組みについて市民の方に理解を深めていただくことを目的として、映画上映会、公開シンポジウム、ポスター・パネル展と、国際交流フェアを実施します。

2011 年 11 月 23 日 (水)

横浜市立大学 金沢八景キャンパス シーガルホール

横浜市金沢区瀬戸 22-2、<http://www.yokohama-cu.ac.jp/access/pdf/hakkei.pdf>
京浜急行「金沢八景駅」下車徒歩 5 分、シーサイドライン「金沢八景駅」より徒歩 7 分



第1部 10:00～12:00 想定定員 200名

ドキュメンタリー映画「カラコルム」上映会

1955年、戦後初の文部省助成による海外学術調査として、京都大学カラコルム・ヒンズークシ学術探検隊（木原均隊長）が、約半年間にわたる学際的フィールド調査を展開した際の学術記録映画。SATREPSプロジェクトで里帰りさせようとするコムギは、この55年に日本の学術調査の際、生物資源の保存という観点で収集された。

第2部 13:00～17:30 想定定員 150名

公開シンポジウム「アフガニスタンの復興に向けて今我々ができること」

*同時開催企画 10:00～16:00（シーガルホールホワイエ、ホール前テント広場）

「地球規模課題の解決と国際協力に関するポスター・パネル展」

アフガニスタンの復興支援に受けた取り組みを事例として、開発途上国援助・国際協力・復興支援に取り組む関係機関のポスター・パネル展示、資料配布

（JST、JICA、JICA横浜、あーすぷらざ、WFP協会、世界銀行、カレーズの会、
難民を救う会など）＜学生参加型

「国際文化交流・アフガニスタンフェア」

屋外にてアフガン音楽（ダンス）や衣食住、文化などを見聞き、体感する異文化交流のためのイベント広場 ＜学生参加型

主催：横浜市立大学・SATREPS市民フォーラム事務局

〔木原生物学研究所内 SATREPSアフガン小麦プロジェクト・リーダー 教授・坂 智広

Tel. 045-820-2404, Fax 045-820-1901, E-mail afghan@yokohama-cu.ac.jp〕

後援：文部科学省、駐日アフガニスタン大使館、独立行政法人科学技術振興機構（JST）、独立行政法人国際協力機構（JICA）、世界銀行東京事務所、WFP協会、横浜市政策局

協賛：JICA横浜、横浜コンヴェンションビューロー

協力：あーすぷらざ、金沢国際ラウンジ、理化学研究所PSC、鳥取大学乾燥地研究センター
カレーズの会、トレボル@横市、PEACE NEWS、ペシャワール会

【市民フォーラム開催の背景】

SATREPS プロジェクトによる人作り・国づくりへの貢献

コムギはアフガニスタンにおいて最も重要な作物であるが、生産レベルは需給を満たすに至っておらず、生産量倍増(現状の平均2t/ha を4t/ha に)は最優先の国家目標である。アフガンではその厳しい自然条件と復興途中の社会条件などから、コムギ生産量増大栽培面積を拡大するには多くを望めないため、緊急な収量増大のためには地域資源の効率的利用を図り、灌漑を含む栽培技術の改良にかなう高収量品種の導入開発に優先度が置かれてきた。これまでに FAO や国際農業研究機関(CIMMYT/JICA、ICARDA)などの協力により灌漑型の高収量品種の導入が図られているが、アフガンのコムギ生産地域の75%近くは天水に頼る地域であり、地域での持続的な農業生産向上には自分たちの手による品種改良と研究開発の整備が重要である。日本の科学技術と戦後復興の経験と歴史的なコムギの遺伝資源を最大限に活用して不良環境耐性・病虫害抵抗性を付与した高生産性を付与し、品質(高ナン適正)・栄養価を高めるなど、さらに優秀な(現地のニーズに的確に対応した)品種を持続的に開発するシステム構築が大きな課題の一つである。

横浜市立大学木原生物学研究所は理化学研究所植物科学研究センターと鳥取大学乾燥地研究センターと連携し、JST/JICA 共同実施の「SATREPS 地球規模課題対応国際科学技術協力事業」の中で、国際共同研究のネットワークを活かして科学技術協力によりアフガニスタンの持続的食糧生産の基盤となるコムギ育種のための育種素材開発と人材育成の5ヵ年プロジェクトを平成22年から展開している。本プロジェクトでは、1) アフガニスタンコムギ遺伝資源の多様性評価、2) 不良環境耐性の高いコムギ遺伝資源の育種利用技術開発、3) 近縁野生種の潜在的能力を導入した新規コムギ育種素材の開発、4) アフガニスタンコムギ遺伝資源の保全と育種利用などの研究開発を通じて、アフガニスタン自国の育種システム再構築による復興支援を進めている。アフガニスタンでは長きに亘る内戦で、育種素材である遺伝資源とそれを扱う技術基盤を失ってしまった。研究開発の成果を社会実装として持続的農業生産に活かすためには、未来へのまた世界への架け橋として次世代を担う人材の育成が不可欠であり、アフガニスタンからの留学生・研修生を受け入れて研究指導し、合わせて母国と CIMMYT、ICARDA などの国際農業研究機関での On-the-Job Training と様々な機会を活かした“Shuttle Education”を展開している。

http://pgsource.sci.yokohama-cu.ac.jp/satreps/index_jp.html

半世紀を超えたコムギ遺伝資源の里帰り計画

アフガニスタンはコムギの起源地に繋がり、麦類の近縁野生種を含めたような遺伝的変異と有望な遺伝資源が保有されてきたが、それらの体系的な遺伝学的研究と特性選抜はなされておらず、有用な遺伝的変異を利用し交雑等を通じて品種開発する育種技術は現在のところ確立されていない。

木原生物学研究所には、故木原均博士らが 1955 年に実施したカラコルム・ヒンズークシ学術探検の際にアフガニスタンで採集した在来コムギの遺伝資源を保有している。アフガニスタンの気候風土、栽培環境、生活・文化体系に適応した在来のコムギは、外国からの近代導入品種が具備しない強靭さを持ち、持続的生産の有効な素材である。我々はアフガニスタンからの留学生・研修生とともに研究技術指導をしながらこれらの遺伝的多様性や農業特性について調査研究を進め、日本の先端科学技術とゲノム情報を用いて有用形質の評価・選抜法を開発するとともにアフガニスタンの品種改良に役立つ素材をま

とめて里帰りさせる。日本の科学技術・研究ノウハウを生かし、新たな生物資源の遺伝的多様性と可能性を利用して開発した耐病性や耐旱性などの新しいコムギ育種素材を開発するとともに若手研究者の人材を育成することは、世界的に求められるアフガニスタンの復興支援における持続的食糧生産再生の基盤となり、日本の旗を掲げた民生支援に貢献することができる。

今年度本格的に始動した本 **SATREPS** プロジェクトについて、プロジェクトのキックオフを市民に伝える機会が必要である。また **SATREPS** プログラムを実施する **JST/JICA** の取り組みを市民に広く理解する場として市民フォーラムを開催する。この市民フォーラムを通じて横浜市立大学と国際協力・復興支援に取り組む関係諸機関との連携を深め「人作り・国造り」ための英知を集約するネットワークの構築を進める。アフガニスタンを事例とした国際貢献について「今我々ができること」を市民や次世代を担う学生たちと共に考え、横浜市立大学の国際化にむけた取り組みについて市民の理解を深めることを目的として、映画上映会、公開シンポジウム、ポスター・パネル展と、国際交流フェアを実施する。



【企画内容 1】

第 1 部 10:00～12:00 定員 200 名（ホール座席 500 人収容可能）

ドキュメンタリー映画「カラコルム」上映会

1955 年、戦後初の文部省助成による海外学術調査として、京都大学カラコルム・ヒンズークシ学術探検隊（木原均隊長）が、約半年間にわたる学際的フィールド調査を展開した際の学術記録映画。SATREPS プロジェクトで里帰りさせようとするコムギは、この 55 年に日本の学術調査の際、生物資源の保存という観点で収集された。

映画紹介

カラコルム〈カラコルム・ヒンズークシ探検の記録〉

日本/1956 年/約 79 分/カラー

提供：日映アーカイブ ©1956 東宝 [JASRAC] V-0907328

京都大学カラコルム・ヒンズークシ学術探検隊

隊長 木原均

隊員 北村二郎・山下孝介・岩村忍・山崎忠・梅棹忠夫・
岡崎敬・奈良弘美・中村誠二・今西錦司・松下進・
藤田和夫・中尾佐助・原田直彦・林田重男

制作会社：日本映画新社／製作：堀場伸世／撮影：林田重男・中村誠二／構成・編集：伊勢長之助・
中村敏郎／音楽：黛敏郎・團伊玖磨／解説：今福祝／録音：國島正男／線画：村田安司



【企画内容2】

第2部 13:00～17:30

公開シンポジウム「アフガニスタンの復興に向けて今我々ができること」

シーガルホール3階、定員100名（ホール座席500人収容可能）、日本語・英語（通訳あり）

司会進行 横浜市立大学 生命ナノ研究科長 荻原 保成（オギハラ ヤスナリ）

〔プログラム〕

13:00 シンポジウム開催挨拶 横浜市立大学 学長 布施 勉

セッション1 講演

“アフガニスタン復興に向けた 食造りと人造り”

- 13:10 「〈基調講演〉アフガニスタンの農業、挑戦の歴史」
アフガニスタン大使館一等書記官 **S. A. Razaq LUQMAN** (ラザック・ルックマン)
- 13:30 「SATREPSプログラムによる日本の科学技術協力」
JST 科学技術振興機構 地球規模課題国際協力室 室長 岡谷 重雄 (オカヤ シゲオ)
- 13:50 「緊急復興支援から自立発展的で持続的な開発へ～アフガニスタン国民へ届く支援を～
パートナーとしての日本/JICAの開発戦略（農業・農村開発）」
JICA 国際協力機構 農村開発部長 熊代 輝義 (クマシロ テルヨシ)
- 14:10 「世界銀行の取り組みについて、CSO/NGOの活動を支援して」
世界銀行駐日特別代表 谷口 和繁 (タニグチ カズシゲ)
- 14:30 「国際都市横浜発！半世紀を超え研究が繋ぐ横浜市立大学としての国際貢献の取り組み」
横浜市立大学 副学長 兼グローバル都市協力研究センター長 重田 論吉 (シゲタ ユキ)
- 14:50～15:00 休憩（ホールホワイエでのパネル・ポスター展示）
- 15:00 「アフガニスタンの食造りのため求められるもの、コムギ育種システムの構築」
JICA アフガニスタン事務所コンサルタント・元 CIMMYT アフガン事務所代表
Mahmood Osmanzai (マフムド・オスマンザイ)
- 15:20 「アフガニスタン国立農業試験場再建計画（NARP）による持続的食糧生産基盤の構築」
JICA 国立農業試験場再建プロジェクト（NARP）チーフアドバイザー 米山正博 (ヨネヤマ マサヒロ)
- 15:40 「国際ネットワークを活かしたアフガニスタン向けコムギ育種素材の開発と人材育成」
横浜市立大学 木原生物学研究所 教授・SATREPS アフガン小麦プロジェクト・リーダー
坂 智広 (サカ トモヒロ)
- 16:00 「国造りのための人造り、日本のアフガニスタン教育協力」
大阪大学名誉教授、お茶の水女子大学客員教授 内海 成治 (ウツミ セイジ)
- 16:20～16:30 休憩（ホールホワイエでのパネル・ポスター展示、アフガンの民族衣装試着）

セッション2 パネルディスカッション

“アフガニスタンの復興に向けて今我々ができること ～日本の科学技術とアカデミアの役割”

16:30～17:20

パネリスト：S. A. Razaq LUQMAN アフガニスタン大使館一等書記官
熊代 輝義 JICA 国際協力機構
岡谷 重雄 JST 地球規模課題国際協力室室長
谷口 和繁 世界銀行駐日特別代表
Mahmood Osmanzai JICA アフガニスタン事務所コンサルタント（カナダ国籍）
米山 正博 JICA NARP プロジェクトチーフアドバイザー
吉田 茂男 横浜市立大学 木原生物学研究所所長
内海 成治 大阪大学名誉教授、お茶の水女子大学客員教授
国分 牧衛 東北大学

モデレーター：坂 智広 横浜市立大学 木原生物学研究所教授

17:20 シンポジウム・市民フォーラム閉会挨拶
横浜市立大学木原生物学研究所所長 吉田茂男所長

17:30 シンポジウム・市民フォーラム閉会

17:45 STREPS アフガニスタン小麦プロジェクト キックオフセレモニー

挨拶 横浜市都市経営局 大学担当理事 青木 利行

18:30 市民フォーラム・シンポジウム参加関係者の懇親会を開催
(横浜市立大学 市大交流プラザ いちょうの館)

【企画内容 3】

* 同時開催企画 10:00～16:00 (シーガルホールホワイエ、ホール前テント広場)

○ 「地球規模課題の解決と国際協力に関するポスター・パネル展」

アフガニスタンの復興支援に受けた取り組みを事例として、開発途上国援助・国際協力・復興支援に取り組む関係機関のポスター・パネル展示、資料配布

○ 「国際文化交流・アフガニスタンフェア」

屋外にてアフガン音楽（ダンス）や衣食住、文化などを見聞き、体感する異文化交流のためのイベント広場。アフガニスタンの分化や産業を伝える物産の紹介と販売など
＜学生参加型＞



この横浜市立大学 **SATREPS** 市民フォーラムでは、「次世代を担う子供たちに何を残して伝えていくべきなのか？」を皆さんと考えていきたいと思ひます。

【問い合わせ先】

横浜市立大学

木原生物学研究所

SATREPS アフガンプロジェクトチーム 教授 坂 智広

〒244-0813 横浜市戸塚区舞岡町 641-12

Tel. 045-820-2404, Fax 045-820-1901

E-mail: afghan@yokohama-cu.ac.jp

金沢八景キャンパス

研究推進課

前川 周

学術企画課

星野 知子

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸 22-2

Tel. 045-787-2422, Fax 045-787-8907